

Ⅵ 平塚市の植生保護・保全

1. 自然植生の保護・保全

平塚市では自然林はきわめて少ない。また自然草原も河辺・海辺などのもっとも環境条件の厳しい立地にわずかに残されているにすぎない。

小面積のこれらの自然植生は人為的影響に対してはきわめて敏感で、さらに破壊されると自然にもどるためには莫大な経費と長い年月が必要とされる。したがって第1に自然植生は厳重に保護することが必要とされる。さらに自然林の場合は周辺の林分をもまとめて保護する必要がある。森林そのものはひかくてき狭い面積であるがマント群落、ソデ群落をふくめ、保護し森林内に風や光が侵入しないようにすることが望ましい。また砂丘植物など、草原の場合は過度の踏圧や人工的造成・立地の改変は避けることが必要である。

少ない自然は徹底的に保護し、さらに全体の調和のとれた緑豊かな環境創造の計画・積極的な実施が望まれる。

2. 社寺林・屋敷林

平塚市には大小の神社やお寺の社叢林がある。昔からの古い社寺では社叢林を形成し、森蔽性を保つための、できるだけ郷土の緑豊かな自然に近い環境をも整備しているが、新しい神社やお寺は機能だけを追い非生物的材料による建物と門、あるいは墓地だけの機能本位の単純なものになっている(Phot. 49, 50.)。屋敷林においても昔からある古い集落ではケヤキ、タブノキ、シロダモ、モチノキなど郷土種による、多様な機能を果す屋敷林を形成し、郷土の緑の中で生活してきた。新しい集落、市街地では樹木がきわめて少ない。しかも、安易に植栽できる外来種の画一的な植栽による形式的な美化にこだわりすぎている。また大きすぎるとじゃま的な発想も生まれている。決して土地の面積が狭いだけではないようである。むしろ狭い土地を立体的に利用する発想法が緑の環境形成にも望まれる。平塚市の市街地でも軒をつきあわせて、住宅、建物が密集しており、個々の環境保全林はきわめて困難である。その場合は公共施設内、周辺並木など緑化に対して総合的な施策が計画されればよい。現在残されている社寺林や屋敷林は小面積でも市民の生活の緑として残されることと、さらに管理についても人間本位だけでなく、生態学的な注意が必要とされる(Phot. 47, 48.)。

3. 二次林・植林

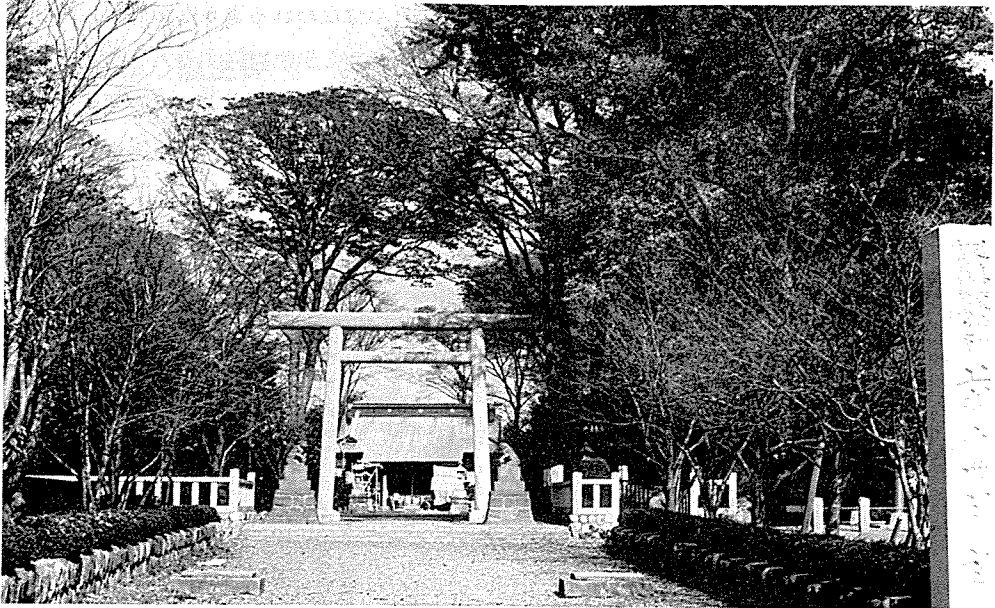
土屋・吉沢あるいは高麗山斜面ではクヌギーコナラ群集やオニシバリコナラ群集、イヌシデコナラ群落のような武蔵野の雑木林とならび称せられるコナラの二次林が広い面積で広がって

いる。コナラ林は10～15年に一度伐採され、下草刈りが毎年行なわれるような頻繁な人為的管理がつづけられてきた。これからも多少の人為的影響が加わっても植生に対する大きな影響はない。したがって広域レクリエーション地域やハイキングコースなど緑の保養所としての開発利用程度は許容される。湘南平の市民の憩いの場としての利用や、小鳥の森あるいは湘南平から浅間山をへ



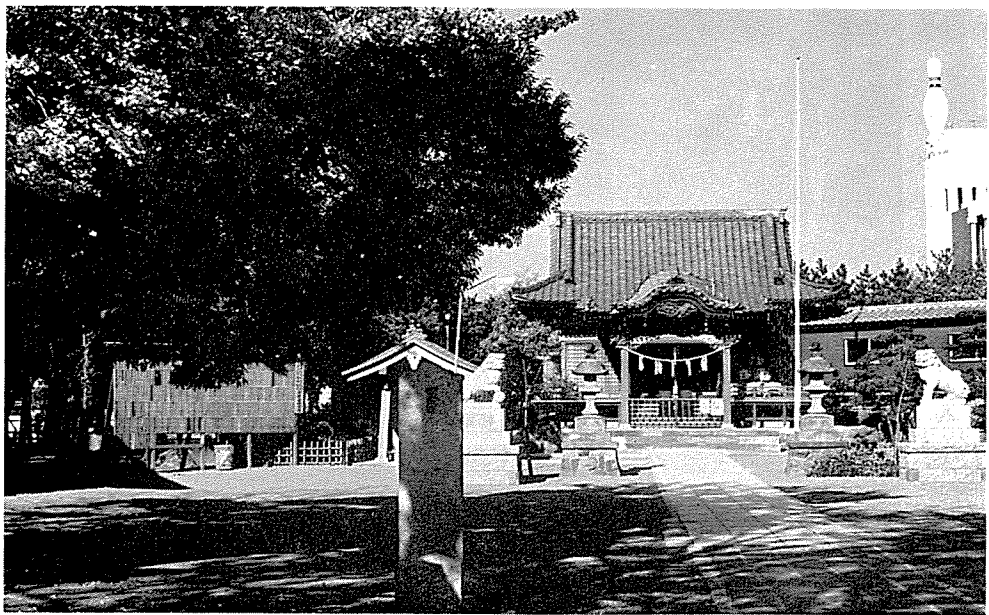
Phot. 47 土塀を遺蹟として残すだけでなく自然を残し、調和した形で保護している例。

Der aus Erde und Steinen gebaute Wall um eine geschützte Ruine soll auch, wie hier, standortgemäße Vegetation tragen.



Phot. 48 平塚市には多くの神社があるが古い神社ほど自然と共存し自然が残されている。

In der Stadt Hiratsuka liegen mehrere Shinto-Schreine und buddistische Tempel. Je älter sie sind, desto naturnähere Waldbestände umgeben sie.



Phot. 49 比較的新しい神社では単木的に木が植えられているが森はない。

Verhältnismäßig neue Tempel haben keinen Wald in ihrer Umgebung, wo nur einzelne Bäume gepflanzt worden sind.



Phot. 50 もっとも新しいお寺では林もなく建物も近代化されている。

Der neueste Tempel ist zwar ein modernes Bauwerk, ihm fehlen aber Wald und Baum!

て高麗山に至るハイキングコースなどは自然環境にそくした利用法と考えられる。できるだけ現存植生や現地地形に手を加えないで、自然の中での利用計画がたてられるべきである。山の中まで画一的にコンクリートや砂利を敷くことすらも十分考慮して行われるべきである。

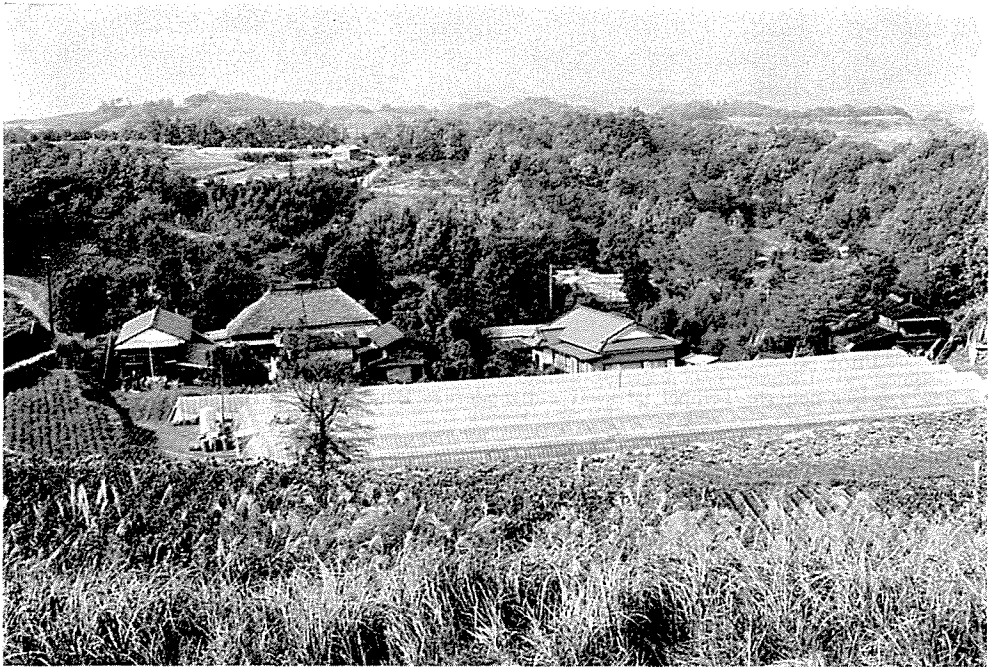
平塚市では植林の種類は比較的多いが面積はきわめて狭い。スギ植林は吉沢・土屋の谷部にまた浅間山の谷部に一部、クロマツ植林は海岸ぞいと松風町、桃浜町及び八幡神社に一部みられる。

ニセアカシア植林が浜岳や根板間に一部みられるがきわめて小規模である。モウソウチク林は、平塚市西部の大磯丘陵や北金目台地などの屋敷の裏に植栽されている。岡崎ではマダケ林がみられる。このような植林地は下草刈り、下枝刈りなどの人為的管理とつりあって存続している。したがって二次林と同様多少の人為的影響に対してはあまり植生の変化はない。スギ植林に対しては、林業的には光の侵入に注意することが必要とされる。光が侵入することにより雑草やつる植物の侵入が著しくなる。

二次林や植林は長い間の人間の管理と共存して生育してきている。したがって面の保護・保全が行なわれていれば点や線の利用に対しては大きな植生の変化をもたらすことはない。利用しやすい植生である。

4. 市 街 地

市街地では緑がきわめて少ない。点で残されている八幡神社と、平塚市南部のクロマツ植林を残すことが大きな課題とされる。さらに市街地の神社やお寺に単木的な残されているケヤキやイチョウの古木に対しては補植を行ない、点から狭くとも面の、さらに立体的な緑に広げることが望ましい (Phot.50)。また石門から生垣になど多くの課題が残される。



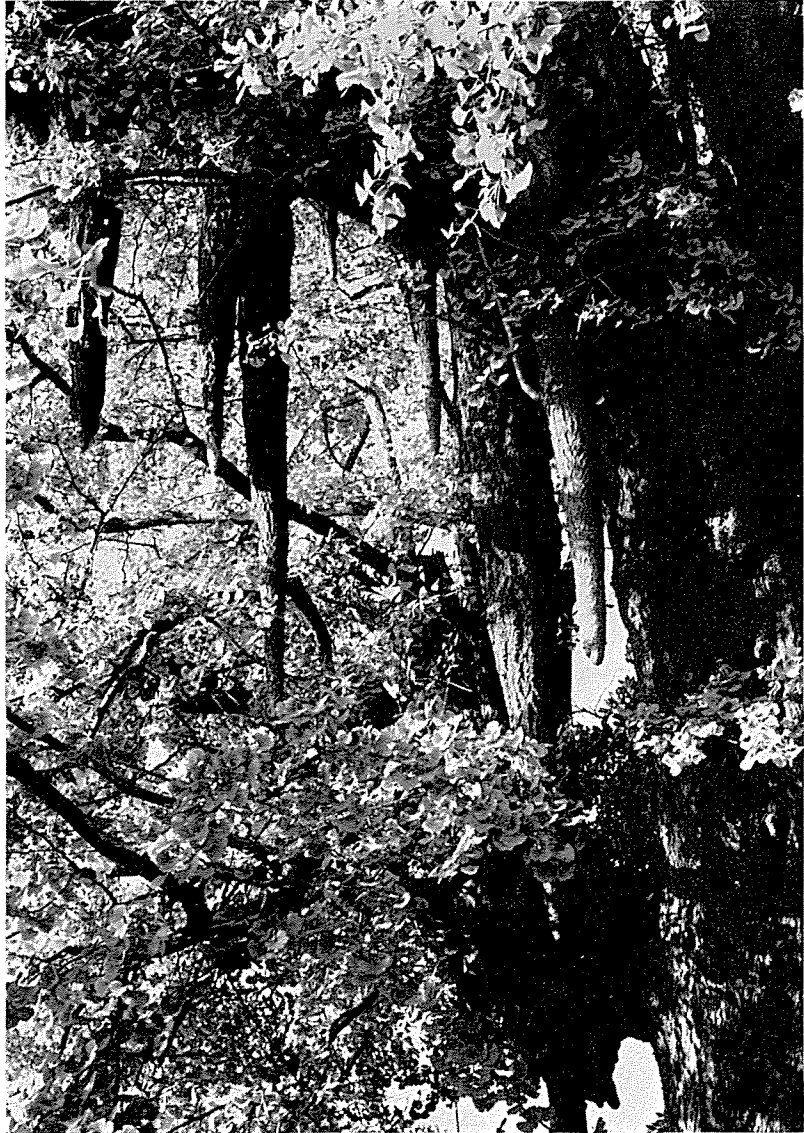
Phot.51 古い屋敷林や、屋敷林の周辺に残されている二次林、竹林が斜面を保ごし、台地上を畑地として利用してきた祖先の英智を子孫に伝えている。

Traditionelle Boden-Nutzungsweise. Alte Bauernhof-Wälder und in ihrer Umgebung erhaltene Sekundär-Wälder des *Quercetum acutissimo-serratae* und Bambus-Bestände sind am Hang geschützt. Die Hochebene und tiefer gelegene ebene Flächen werden als Äcker benutzt. Diese Erfahrungs-Weisheit der Vorfahren sollte als Grundprinzip den Nachkommen überliefert werden.



Phot. 52 天然記念物としての単木の指定も生命尊重の上から重要であるが、群落としての面的な指定が、さらに望まれる（中原）。

Naturdenkmal eines alten *Ginkgo biloba*-Baumes am Shiunzan-Tempel (Nakahara).



Phot. 53 乳状突起（担根体）がたれているイチョウ。
Zapfenartig herabhängende Teilen des Stamm-Teile von *Ginkgo biloba* (Nakahara).